

コロナ禍の しゃばぐらし

コロナ禍における繋がりと支援の考察
～矯正施設を退所した独居者の語りをもとにして～



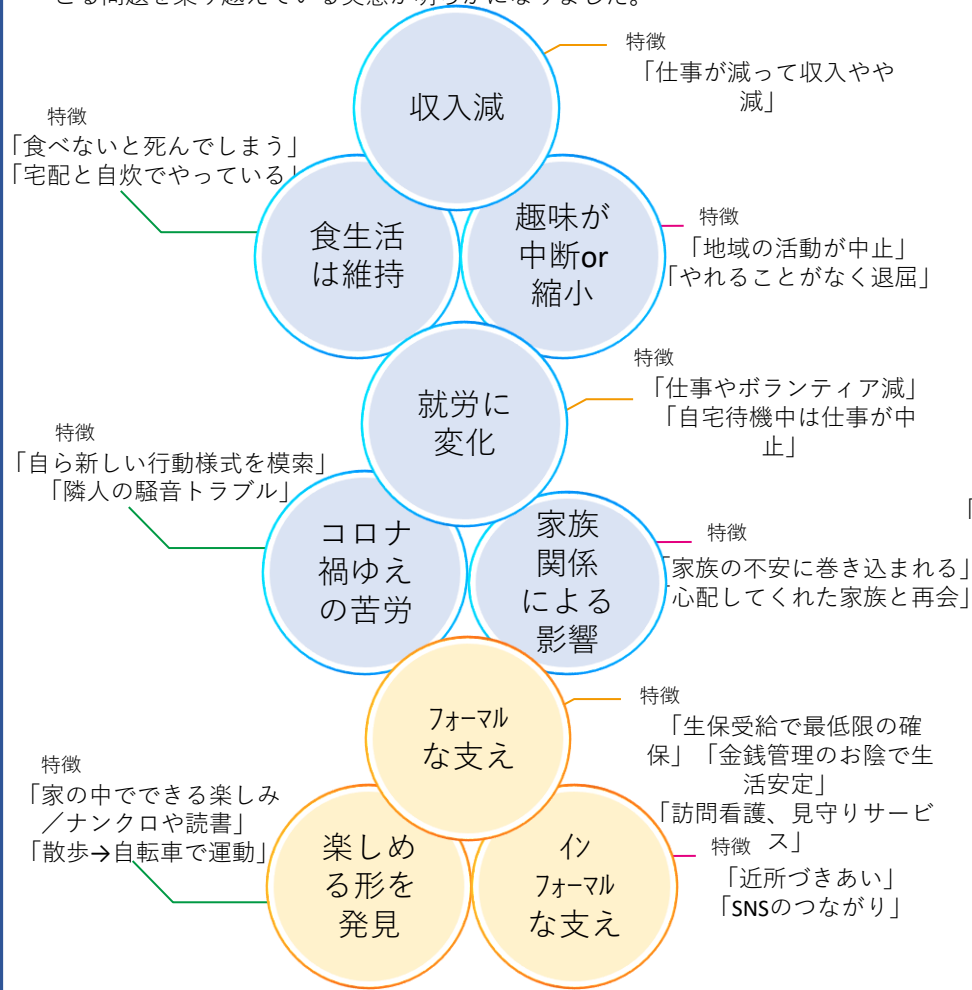
大同生命厚生事業団地域保健福祉研究助成により研究調査を行い作成しました。

一般社団法人 よりそいネットおおさか
大阪府地域生活定着支援センター
大阪府中央区谷町7丁目4番15号
大阪府社会福祉会館2階
TEL：06-6762-8644 FAX：06-6762-8645

ひとり暮らし



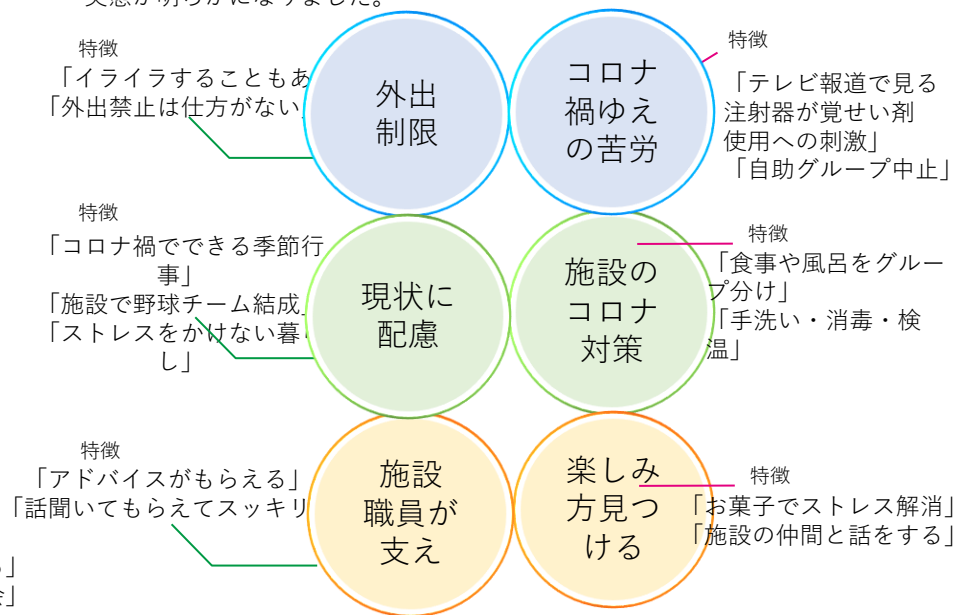
コロナ禍のひとり暮らしでは、食事や就労、通院など、もともとあたりまえだった生活に大きな不安を抱えることを余儀なくされました。しかし、支援者に相談したり近隣や仲間に支えられるなど、自ら人につながりを求めて日々起こる問題を乗り越えている実態が明らかになりました。



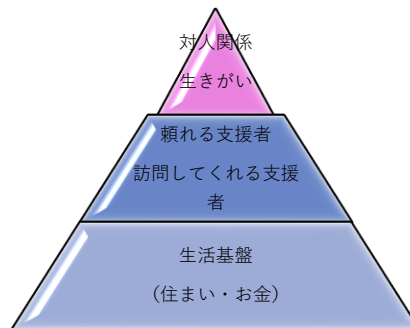
施設暮らし



コロナ禍の施設暮らしでは、集団感染を防ぐために外出制限など不自由を余儀なくされました。しかし、施設スタッフの配慮で施設内でも楽しめるレジャーやストレスがかからない工夫が施されて、安心な生活が守られている実態が明らかになりました。



コロナ禍の高齢者・障がい者のひとり暮らしを支えている要素



不安なコロナ禍でも精神的に支えられる関係性がある（自助・共助）

非常事態であっても揺るがない生活基盤と支援体制が構築されている（公助）